

うまい!

岩船米づくり情報 No. 3

平成 27 年 4 月
岩船米技術者会議
村上農業普及指導センター
JA にいがた岩船

好天日田植えと保温的水管理で初期生育促進

— 重点事項 —

- ◎ コシヒカリは5月10日以降の好天日田植えを心がける。
- ◎ 活着までは保温的深水管理、その後は浅水管理で分けつ発生を促進する。
- ◎ 除草剤の適正使用に努め、薬害の発生を防止する。

1 適期田植え ～好天日田植え・大苗厳禁～

- 5月の気温は平年並みと予想されていますが、数日の周期で変動するのが一般的です。風の少ない、晴れた日の田植えがベストです。
- 連休前半の田植えは出穂期が早くなり、高温条件下での登熟となるため、乳心白粒の多発生による品質低下を招きます。
- また早植えは生育過剰となり細莖化、充実不足による品質低下を招きます。



高温条件下での出穂・登熟を避けるため、**早生品種は5月5日以降、コシヒカリは5月10日以降の好天日田植え**を行いましょう

- 密植・大苗で植えると、細い莖が多くなり、倒伏しやすくなるほか、ヤセ米や乳心白粒が増加します。
- 疎植（スカスカ）で植えると太い有効莖を確保でき、一穂粒数が多くなり、登熟が高まり品質が向上します。



1株 3～4本植えとし、
コシヒカリの栽植密度は**50～60株/坪セット**の疎植を行いましょう
(砂質土壌等生育量が不足する地域や早生品種では60～70株/坪セット)

- ①田植えの4～5日前に箱当たりチッソ成分1～2gの弁当肥を施用し、活着・初期生育を促進しましょう。
- ②昨年イネミズゾウムシ等の害虫の被害が多かった場合は、殺虫剤を箱処理しましょう。



2 田植え後の水管理 ～活着促進・初期生育促進のポイント～

- 水温が低いこの時期に、いかに水温を上げられるかが、スタートダッシュを効かせる重要なポイントです。
- 「早朝のかん水と日中の止め水」を励行し、有効莖の早期確保に努めましょう。

☆ 植え傷みを防止し、初期生育を促進するためには？

- ① かん水は早朝に行い、日中は止め水として水温上昇と保温
- ② 活着までの間は、やや深め(3～4cm)の水管理で苗を保護
- ③ 活着後は、浅水管理(2～3cm)で水温上昇を図り、分けつ発生促進
- ④ 低温・強風時は、一時的に深水にして保温(苗の保護)
- ⑤ ワキの発生が見られたら、夜間落水でガス抜き(早朝かん水)

3 雑草防除 ～ヒエの生長速度は速い～

○ほ場条件・対象雑草に合った除草剤を選び、注意書き（使用時期、使用量、使用方法など）を良く読んで、正しく使いましょう。

☆ ヒエは田植え後5日（代かき後、1週間程度）で1葉になります。

①「移植後〇〇日まで」「ノビエの〇.〇葉期まで」と記載されている場合は、代かき後日数を考慮して、除草剤散布を遅れないように注意しましょう。

ヒエの葉齢到達日（田植え後）

ヒエ葉齢	田植後日数	調査方法
1.0葉期	4～5日	調査場所：長岡市 代かき後3日で田 植えした場合
2.0葉期	7～10日	
2.5葉期	10～13日	
3.0葉期	13～16日	

② 除草剤の種類に応じた散布時の水深を十分に確保しましょう。
（特にフロアブル剤やジャンボ剤等は深水）。

4 いもち病の“伝染源”を無くしましょう！ ～予防が重要～

○いもち病多発生地（従来コシヒカリの頃、多発生の地域）や前年多発生したほ場では、コシヒカリBLを含む全品種で育苗箱施用剤による葉いもち防除を行いましょう。

○わたぼうし等のいもち病抵抗性が弱い品種は、必ず育苗箱施用剤を使用しましょう。

○ほ場に放置した補植苗は、葉いもちの伝染源となるので、速やかに除去しましょう。

5 用水更新（夜間落水）で根の健全化を！ ～ワキ防止対策～

○稲わらを舂すき込みしたほ場などでは、気温の上昇に伴いワキ（生わら等の分解により発生する有害なガス）が発生し、根腐れや生育停滞を起こします。

○用水の更新（夜間落水）によりガス抜きを行い、根の健全化に努めましょう。

ワキの発生程度とその対策（昭55、新潟農試）

ワキの程度	ワキの発生程度	水稻生育への影響	対策
			6月上旬まで
少	水田に足を踏み込むと僅かに気泡の発生がみられる。	なし	—
中	水田に足を踏み込むと気泡の発生が多い。	根の活力低下	用水の更新（夜間落水）
多	水田に足を踏み込むと盛んに気泡を発生する。	根張り不良	用水の更新を繰り返す
甚	晴天時自然に気泡を発生し、音が聞こえる。また水田を歩くと著しく気泡を発生する。	根の伸長阻害 地上部黄化	間断かん水

ただいま春の農作業安全確認運動実施中です！

常にゆとりをもった作業と運転に心がけ、ほ場等への段差に注意した転倒防止や、反射材等の取り付けによる夜間の追突防止に留意しましょう。

また、農作業に出かけるときには、家族や周囲の方に行き先を伝え、一人だけの作業はできるだけ控えましょう。

